

科目名 初等教科教育法（生活）

I. 目的

小学校学習指導要領（生活）をもとに、生活科の授業での理論と方法を学びそれら基礎的事項を理解することができる。

II. 学修到達目標

- (1) 学習指導要領の変遷について理解することができる
- (2) 生活科が新設された経緯および学習の意義について説明することができる
- (3) 資質・能力の三つの柱と生活科との関連について理解することができる
- (4) 学習指導要領に示された生活科の教科目標について説明することができる
- (5) 学習指導要領に示された生活科の学年の目標や内容のまとまりについて整理することができる
- (6) まとまりを意識した生活科の内容の全体構成について説明することができる
- (7) 生活科における学びの過程について理解することができる
- (8) 児童の学びを質的に高める深い学びの視点による学習指導について説明することができる
- (9) 具体的な授業の活動場面を通して、学校、家庭及び地域の生活に関する内容について理解することができる
- (10) 学校、家庭及び地域の生活に関する内容についてどのように資質・能力を育てていくのか説明することができる
- (11) 具体的な授業の活動場面を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容について理解することができる
- (12) 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容についてどのように資質・能力を育てていくのか説明することができる
- (13) 具体的な授業の活動場面を通して、自分自身の生活や成長に関する内容について理解することができる
- (14) 自分自身の生活や成長に関する内容についてどのように資質・能力を育てていくのか説明することができる
- (15) 生活科の年間指導計画を通して、単元ごとの指導内容やその構成について理解することができる
- (16) 生活科の2年間を見通した学習過程について説明することができる
- (17) 単元「きれいにさいてね わたしのはな」の実践事例を通して、活動の様子や児童の姿を捉えることができる
- (18) 捉えた児童の姿をもとに、児童にどのような資質・能力が育まれたのか説明することができる
- (19) 生活科の学習評価を進めるにあたり、学習指導要領に基づき、単元ごとに観点別に評価基準を整理・検討することができる
- (20) 整理・検討した内容に基づいて、具体的な児童の姿を想定して評価規準の作成することができる
- (21) 内容の構成要素を踏まえて単元を構想し、児童の興味・関心、教師の願い、学習活動の特性について整理・

検討することができる

- (22) 整理・検討したことに配慮をしながら、学習指導案を作成することができる
- (23) 生活科と他教科等との関連を整理・検討することができる
- (24) 整理・検討したことをもとに、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続を意識した指導について説明することができる
- (25) 生活科と幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を整理・検討することができる
- (26) 整理・検討したことをもとに、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について説明することができる

Ⅲ. 小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる
- (2) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる
- (3) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる
- (4) 評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる
- (5) 教科の専門性を踏まえ、子供一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる
- (6) 適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うこととともに、自己の専門性向上に努めることができる

Ⅳ. 学修の概要

生産年齢人口の減少、グローバル化、IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット等をはじめとする技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化している。子供たちの多くは将来、今は存在しない職業に就くとの報告もなされるなど、まさに予測困難な時代となっている。生活科では、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験とそこから得られた「気付き」を自覚し、それを表現することを繰り返し行うなかで「気付き」の質を高め、自立への基礎を養うことをねらいとしている。本講座ではこのような生活科の特有の学習プロセスを踏まえた上で、ねらいを明確にした指導計画の作成、評価方法などについて学ぶ。

第1講 生活科がなぜ誕生したのか

◆目的

学習指導要領の変遷を通して、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を目指して新設された生活科の誕生の経緯および学習の意義について考える

◆学修到達目標

- (1) 学習指導要領の変遷について理解することができる
- (2) 生活科が新設された経緯および学習の意義について説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる
- (2) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 学習指導要領の変遷について整理しなさい
- (2) 学習指導要領の変遷を踏まえた上で、生活科が新設された経緯および学習の意義について説明しなさい

第2講 生活科の教科目標

◆目的

資質・能力の三つの柱と関連させながら、学習指導要領に示された生活科の教科目標について考える

◆学修到達目標

- (1) 資質・能力の三つの柱と生活科との関連について理解することができる
- (2) 学習指導要領に示された生活科の教科目標について説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる
- (2) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 資質・能力の三つの柱と生活科との関連について整理しなさい
- (2) 学習指導要領に示された生活科の教科目標について説明しなさい

第3講 生活科の内容構成

◆目的

学習指導要領に示された生活科の学年の目標や内容のまとまりについて整理し、まとまりを意識した生活科の内容の全体構成について考える

◆学修到達目標

- (1) 学習指導要領に示された生活科の学年の目標や内容のまとまりについて整理することができる
- (2) まとまりを意識した生活科の内容の全体構成について説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる
- (2) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 学習指導要領に示された生活科の学年の目標や内容のまとまりについて整理しなさい
- (2) まとまりを意識した生活科の内容の全体構成について説明しなさい

第4講・第5講 生活科の学びの特性

◆目的

生活科における学びの過程を理解し、児童の学びを質的に高める深い学びの視点による学習指導について考える

◆学修到達目標

- (1) 生活科における学びの過程について理解することができる
- (2) 児童の学びを質的に高める深い学びの視点による学習指導について説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる
- (2) 教科の専門性を踏まえ、子供一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 生活科における学びの過程について整理しなさい
- (2) 児童の学びを質的に高める深い学びの視点による学習指導について説明しなさい

第6講 学年目標の項目から ～学校、家庭及び地域の生活に関する内容～

◆目的

具体的な授業の活動場面を通して、学校、家庭及び地域の生活に関する内容について理解し、どのように資質・能力を育んでいくのか考える

◆学修到達目標

- (1) 具体的な授業の活動場面を通して、学校、家庭及び地域の生活に関する内容について理解することができる
- (2) 学校、家庭及び地域の生活に関する内容についてどのように資質・能力を育んでいくのか説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる
- (2) 教科の専門性を踏まえ、子供一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる

◆概要

具体的な授業の活動場面

◆追究テーマ

- (1) 具体的な授業の活動場面を通して、学校、家庭及び地域の生活に関する内容について整理しなさい
- (2) 家庭及び地域の生活に関する内容についてどのように資質・能力を育んでいくのか説明しなさい

第7講 学年目標の項目から ～身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容～

◆目的

具体的な授業の活動場面を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容について理解し、どのように資質・能力を育んでいくのか考える

◆学修到達目標

- (1) 具体的な授業の活動場面を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容について理解することができる
- (2) 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容についてどのように資質・能力を育んでいくのか説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる
- (2) 教科の専門性を踏まえ、子供一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 具体的な授業の活動場面を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容について整理しなさい
- (2) 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容についてどのように資質・能力を育んでいくのか説明しなさい

第8講 学年目標の項目から ～自分自身の生活や成長に関する内容～

◆目的

具体的な授業の活動場面を通して、自分自身の生活や成長に関する内容について理解し、どのように資質・能力を育んでいくのか考える

◆学修到達目標

- (1) 具体的な授業の活動場面を通して、自分自身の生活や成長に関する内容について理解することができる
- (2) 自分自身の生活や成長に関する内容についてどのように資質・能力を育んでいくのか説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる
- (2) 教科の専門性を踏まえ、子供一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 具体的な授業の活動場面を通して、自分自身の生活や成長に関する内容について整理しなさい
- (2) 自分自身の生活や成長に関する内容についてどのように資質・能力を育んでいくのか説明しなさい

第9講 生活科の年間指導計画

◆目的

生活科の年間指導計画を通して、単元ごとの指導内容やその構成について理解し、2年間を見通した学習過程について考える

◆学修到達目標

- (1) 生活科の年間指導計画を通して、単元ごとの指導内容やその構成について理解することができる
- (2) 生活科の2年間を見通した学習過程について説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる
- (2) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 生活科の年間指導計画を通して、単元ごとの指導内容やその構成について整理しなさい
- (2) 生活科の2年間を見通した学習過程について説明しなさい

第10講 単元の具体的な指導 ～きれいにさいてね わたしのはな～

◆目的

単元「きれいにさいてね わたしのはな」の実践事例を通して、活動の様子や児童の姿を捉え、児童にどのような資質・能力が育まれたかについて考える

◆学修到達目標

- (1) 単元「きれいにさいてね わたしのはな」の実践事例を通して、活動の様子や児童の姿を捉えることができる
- (2) 捉えた児童の姿をもとに、児童にどのような資質・能力が育まれたのか説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる
- (2) 評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる
- (3) 教科の専門性を踏まえ、子供一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる
- (4) 適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うことともに、自己の専門性向上に努めることができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 単元「きれいにさいてね わたしのはな」の実践事例を通して、活動の様子や児童の姿を整理・検討しなさい
- (2) 整理・検討した児童の姿をもとに、児童にどのような資質・能力が育まれたのか説明しなさい

第 11 講 生活科の学習評価

◆目的

生活科の学習評価を進めるにあたり、学習指導要領に基づき、単元ごとに観点別に具体的な児童の姿を想定して評価基準を作成する

◆学修到達目標

- (1) 生活科の学習評価を進めるにあたり、学習指導要領に基づき、単元ごとに観点別に評価基準を整理・検討することができる
- (2) 整理・検討した内容に基づいて、具体的な児童の姿を想定して評価規準の作成することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる
- (2) 適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うことともに、自己の専門性向上に努めることができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 生活科の学習評価を進めるにあたり、学習指導要領に基づき、単元ごとに観点別に評価基準を整理しなさい
- (2) 整理した内容に基づいて、具体的な児童の姿を想定して評価規準の作成しなさい

第12講・第13講 学習指導案の作成

◆目的

内容の構成要素を踏まえて単元を構想し、児童の興味・関心、教師の願い、学習活動の特性に配慮しながら、学習指導案を作成する

◆学修到達目標

- (1) 内容の構成要素を踏まえて単元を構想し、児童の興味・関心、教師の願い、学習活動の特性について整理・検討することができる
- (2) 整理・検討したことに配慮をしながら、学習指導案を作成することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる
- (2) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる
- (3) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる
- (4) 評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる
- (5) 教科の専門性を踏まえ、子供一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる
- (6) 適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うことともに、自己の専門性向上に努めることができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 内容の構成要素を踏まえて単元を構想し、児童の興味・関心、教師の願い、学習活動の特性について整理・検討しなさい
- (2) 整理・検討したことに配慮をしながら、学習指導案を作成しなさい

第14講 生活科を中心とした合科的・関連的な指導 ～他教科との関連～

◆目的

生活科と他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続を意識した指導について考える

◆学修到達目標

- (1) 生活科と他教科等との関連を整理・検討することができる
- (2) 整理・検討したことをもとに、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続を意識した指導について説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 生活科と他教科等との関連を整理・検討しなさい
- (2) 整理・検討したことをもとに、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続を意識した指導について説明しなさい

第15講 幼稚園での学びと生活科 ～遊びから学ぶ子どもの姿～

◆目的

生活科と幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を整理・検討し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について考える

◆学修到達目標

- (1) 生活科と幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を整理・検討することができる
- (2) 整理・検討したことをもとに、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について説明することができる

◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 幼・小・中学校の系統性、子供の実態を踏まえて指導計画を作成することができる

◆概要

◆追究テーマ

- (1) 生活科と幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を整理・検討しなさい
- (2) 整理・検討したことをもとに、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について説明しなさい

目次

第 1 講	
第 2 講	
第 3 講	
第 4 講	
第 5 講	
第 6 講	
第 7 講	
第 8 講	
第 9 講	
第 10 講	
第 11 講	
第 12 講	
第 13 講	
第 14 講	
第 15 講	

第1講

【学習到達目標】

-
-

＜第1講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

-
-
-
-
-

1.

課題

-
-

第2講

【学習到達目標】

- ・
- ・

＜第2講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第3講

【学習到達目標】

-
-

＜第3講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

-
-
-
-
-

1.

課題

-
-

第4講

【学習到達目標】

- ・
- ・

＜第4講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第5講

【学習到達目標】

- ・
- ・

〈第5講〉小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第6講

【学習到達目標】

- ・
- ・

＜第6講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第7講

【学習到達目標】

-
-

＜第7講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

-
-
-
-
-

1.

課題

-
-

第8講

【学習到達目標】

- ・
- ・

＜第8講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第9講

【学習到達目標】

-
-

＜第9講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

-
-
-
-
-

1.

課題

-
-

第10講

【学習到達目標】

- ・
- ・

＜第10講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第 11 講

【学習到達目標】

-
-

＜第 11 講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

-
-
-
-
-

1.

課 題

-
-

第12講

【学習到達目標】

- ・
- ・

＜第12講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第13講

【学習到達目標】

-
-

＜第13講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

-
-
-
-
-

1.

課題

-
-

第14講

【学習到達目標】

- ・
- ・

＜第14講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

課題

- ・
- ・

第15講

【学習到達目標】

-
-

＜第15講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

-
-
-
-
-

1.

課題

-
-

本テキストは、文部科学省委託事業「令和4年度 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業」により作成した。

科目名

発行日 2022年6月

著者 (岐阜女子大学)

発行所 岐阜女子大学 文化情報研究センター

〒500-8813

岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F